

2007 連合徳島



救急サポートチーム

第7期生報告集

第7期連合徳島「ボランティア養成講座」修了に寄せて

日本労働組合総連合会徳島県連合会

会 長 川 越 敏 良

第7期「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」に参加をいただいた皆さんには、貴重な休日を返上して講座の受講をいただき、また運営等にご協力をいただいたことに、敬意と感謝を申し上げます。

この「連合徳島ボランティア・サポートチーム」は、地域の中で活動する労働組合の役割として、地域住民の一員であることを自覚し、災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、労働組合としてのネットワークを生かした地域貢献、地域住民とのふれあいの中から共生と協働を確立するための事業として発足し、今年で7年目を迎えることができ、このボランティア・サポートチームへの登録も100名を大きく超えることができました。

昭和南海地震は、発生から60年を超え、記憶が薄れる一方で、今後30年以内に50%、さらに50年以内には80%の確立で、再び地震の発生が予測されています。この1週間をとってみても、震度三以上の地震が日本及び日本近海で50回を数え、中四国地域では有感・無感を合わせて449回の地震が発生しており、いわれるような東南海地震がいつ起きても不思議ではない状況にあります。

このような背景の中で始められたボランティア・サポートチーム養成講座ではありますが、様々な取り組みの紹介・報告いただいたり、実際の救急処置の体験や講習、図上訓練など、約半年の期間で、様々な経験を積んでいただき、参加をいただいた方々の感想は、「参加してよかった」「是非何かの形で役立てたい」という評価をいただいています。

私自身も、この間参加をさせていただいておりますが、災害時の心構えを学び、ロープワークや救急措置について講習を受けることを通じて、「ボランティア・サポートチーム」という前に、災害時でない時期の仲間との協働意識を醸成することの大切さと「自らを守る」ことの大切さを学ぶことができています。

連合徳島は、引き続きボランティア・サポートチームによる人材育成と防災協力体制の確立、市民の皆さんの参加と協働の中で、一層の充実を図ってまいります。

最後に、今後ともご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げますと共に、ご指導・ご協力いただきました関係諸団体の皆様に感謝を申し上げ、挨拶とします。ありがとうございました。

第8期講座の開催にあたって

連合徳島ボランティア・サポートチーム

養成講座運営委員会 運営委員長 藤本 恭士

第7回ボランティア・サポートチーム養成講座は、4月28日から11月17日の間、講義や実践体験など全7講座を開催し、多くの防災知識の習得と救急救命等の技術の向上を図ることができました。休日開催にもかかわらず、熱心にご参加くださいました受講生の皆様や運営にご尽力いただきました連合徳島及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

近年、日本のいたる所で洪水や地震などの大規模自然災害が発生し、昨年も3月25日に能登半島沖、7月16日には新潟県中越沖で発生した地震により多くの尊い命と財産が失われました。

私たちの住む徳島県も決して例外ではなく、南海地震は20年以内に発生する可能性もあるとされています。そして、この地震は、M8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れと、10分以内に津波が襲うことが予想されています。

自然災害をコントロールすることは今の科学では不可能だと思いますが、大規模災害が発生した場合に万全に備え、被害を少なくすることは可能です。

私たち連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後、発生が予想される地震等の大規模自然災害に対して、自分自身や家族を守ることがもとより、地域や職場等において公的な組織や被災者の方々と連携し、避難や救出・救命などの災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることを目指して取り組んでいきたいと思っています。そのためにも、さらなる知識と技術の向上をめざし一人でも多くの方に「第8回ボランティア・サポートチーム養成講座」にご参加いただきますようお願いいたします。

－2007ボランティア・サポートチーム養成講座参加者－

井川 樹里	川越 敏良	斎藤 和子	富岡佳代子	藤原 学	山下 健一
一森たつ子	木本 正	佐伯 明典	中川 智史	前田 孝子	山下 美仁
川越 敏良	岸本 紘典	佐々 秀昭	中野 修次	松下 賢二	山藤 正義
犬伏 要輔	工藤 隆司	杉川 公章	中村 光輝	松下 俊郎	横田恵美子
岩見 洋	国見 聖	田中 昭征	能美 道則	溝俣 和哉	吉田 耕造
小笠原幸雄	蔵本セイ子	谷脇日出正	福本 純	宮本 正一	
大寺 禮子	小林 克典	堤 祐司	藤田 宏之	村浪 彰英	
奥野 祐崇	小林 史典	藤森 申二	藤本 恭士	山下 昭彦	加村 祐志

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

- ※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

- ※ 自治体への政策制度要求。

- ※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。

などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される、大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

TEL 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

2007ボランティア・サポートチーム養成講座

	開催予定日		講座内容	講師等	場所
1	4月28日	(土)	開講式・オリエンテーリング、講演「防災で、人を元気に！まちを元気に！」	連合徳島会長 藤原 学 美波町防災担当 浜 大五郎	とくしま県民活動プラザ 664-8211
2	5月19日	(土)	一般救命講習(心肺蘇生法、自動体外式除細動器・AED、止血法等)	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
3	6月16日	(土)	実践体験講習Ⅰ(災害について) 救急法・担架搬送・ロープワーク等	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
4	7月28日 ～29日	(土) (日)	野外活動 救助法・森林教室・木工教室・間伐・植林等 「連合の森」サポート	森林労連等	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
5	8月25日	(土)	県外研修視察(阪神淡路大震災、人と防災未来センター・神戸市)		人と防災未来センター 神戸市
6	10月13日	(土)	実践体験講習Ⅱ(災害図上訓練等)	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
7	11月17日	(土)	講演「震度7」を生き抜いて・・・ ～災害と共に生きる～ 総括討論・修了式	連合徳島会長 川越 敏良 徳島大学2年 小野 綾子	とくしま県民活動プラザ 664-8211

2007ボランティア・サポートチーム養成講座報告

4月28日（土）

開講式・第1講座には、29人が参加。連合徳島・藤原会長から養成講座の意義と激励を受けた後、美波町消防防災課・浜大五郎さんから「防災で、人を元気に！まちを元気に！」について講演を受けた。浜さんから南海地震、津波発生のしくみや美波町の防災対策、災害が地域社会に及ぼす影響などについて詳しく説明を受け、「災害に強いまちとは、普段から元気なまちであることが大切。目指すは防災活動を拠点に、まちを元気にすることだ。自主防災活動から地域を再生していこう」と話された。

質疑の後、参加者から養成講座に参加するきっかけやそれぞれの思いなど自己紹介が行われ、11月までの各講座の内容・日程等について説明・意見交換が行われた。



5月19日（土）

第2回講座は一般救命講習として徳島市東消防署で開催し、28人が参加。救命についての説明後、三角巾を使っての止血方法や人工呼吸・蘇生訓練をした。また、AED（自動体外式除細動器）の使用についても指導を受けた。講習終了後、参加者に徳島市東消防署から「普通救命講習修了証」が交付された。



6月16日 (土)

第3講座—実践体験講習Ⅰ（災害について）

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと26人が参加。日常生活でも利用でき、役立つロープワークを訓練。もやい結び、巻き結びなどロープに惑わされるも、多くの隊員の親切な指導と仲間同士で教え合いながら何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練や、川などで溺れている人への救助法などを学習した。



7月28日 (土) ~29日 (日)

第4講座「連合の森」サポート

地球環境にやさしい労働運動をめざした「連合の森」親子サマーキャンプが、7月28日(土)~29日(日)美馬市木屋平の中尾山・平成荘で開催され、112人が参加した。

12 時 30 分から体育館で開会行事を行い、連合徳島・川越会長から主催者代表のあいさつの後、徳島森林管理署・山本署長、美馬市木屋平総合支所・津川支所長からあいさつを受けた。

13 時から昼のイベントとして「間伐体験」「木工工作教室」「森林教室・炭焼き体験」の3班に分かれ、森林管理署、林野労組の方々の指導のもと実施された。

特に、木工工作教室（カレンダー作り）は大人気で、杉板にどんぐりや木の実・枝などをボンドで貼り付けたり、日付となる木にマジックで色を付けたりと親子で熱中し、それぞれオリジナルなカレンダーを完成させた。また、川上国有林 139 林班で行われた「間伐体験」は林野労組の指導のもと3班に分かれて杉にノコギリを入れ「バッキィバッキィ」と音をたて目標通りの方向に倒れると大きな歓声が沸いた。また、今年初めて行われた「森林教室・炭焼き体験」は、松ぼっくりを炭にする方法を学んだ。

夕方のバーベキューは、昼間に心地よい汗をかいただけで、子供たちの食欲も旺盛で肉・野菜・ウインナー・おにぎり・パン・すいかを食べて、大人達もビールを飲みながらそれぞれに交流を深めた。また、19 時 30 分からは夜のイベントとして行ったビデオ上映（クレヨンしんちゃん、ドラえもん）も子供たちに大好評だった。

翌日は、朝食後に昨年美馬市の協力のもとできた「連合の森」へ車で移動し、県職林務職員の指導のもと、家族・グループ毎に 50 本の苗木（枌の木）を植林するとともに、今年は鹿対策の防護ネットも自分たちで行い、大きく成長することを願って名札も埋め込んだ。

2 日間天候にも恵まれ、林野労組や県職林務職員、地元美馬市の協力をいただき、標高 1,050 ㍎のすばらしい環境のもと事故もなくサマーキャンプを終了することができた。

最後に、今回のキャンプにカンパ等を頂きました各構成組織・団体に心より感謝を申し上げます。





8月25日（土）

第5講座は、昨年に引き続いて県外研修視察として神戸市の「阪神・淡路大震災記念、人と防災未来センター」へ28人が貸切バスで参加した。参加者は、10時から「1・17シアター」で地震発生により崩壊していく高層ビルや高速道路などの様子を迫力ある大映像を見た後、震災直後のまち並みをリアルに再現した「震災直後のまち」、震災から復旧・復興までのまちと人の姿をドキュメンタリー映像した「大震災ホール」、「震災から復興をたどるコーナー」「震災から学ぶコーナー」「防災ワークショップ」やいのちの尊さと共に生きることの素晴らしさを体感できる「ひと未来館」をそれぞれのペースで3時間見学し、学習を深めた。

その後、北淡町震災記念公園（野島断層保存館）も今回はじめて見学し、改めて阪神・淡路大震災の規模が大きかったか、自然災害の恐ろしさを痛感させられた。





10月13日 (土)

実践体験講習Ⅱ (災害図上訓練等)

第6講座は、徳島市東消防署で開催し、18人が参加した。防災のビデオを見た後、災害図上訓練(DIG)について消防署員から説明を受け、実際に机の上に徳島市内中心部の地図を広げ、病院の場所や大きなビル、避難場所に適している場所等をマーカーで色分けして書き込み、実際に災害が起きたときのことを想定し、対応策等について参加者でいろいろと話し合った。



DIGとは、ディザスター(災害)、イマジネーション(想像)、ゲームの頭文字を取って名付けられ「掘り起こす、探求する、理解する」という意味の英語DIGに、「防災意識を掘り起こす、地域を探求する、災害を理解する」という意味を重ねたもの。



11月17日 (土)

第7講座・修了式は、とくしま県民活動プラザで開催し、23人が参加した。第7講座は、徳島大学総合科学部2年の小野綾子さんから『『震度7』を生き抜いて・・・～災害と共に生きる～』と題して講演を受けた。小野さんは、神戸市須磨区出身で小学校1年(7歳)の時に被災し、その時の体験をもとに地震の想像を絶する恐ろしさや自分自身が深い心の傷を負ったことなど、また、長年震災の記憶を心に閉じ込めていたが、

2003年春、全国初の環境防災科がある舞子高校（神戸市）入学を機に、再び震災と向き合いながら地震と防災を学ぶようになった。高校三年間の学習の成果を神戸以外でも生かしたいと考え、南海地震が発生、被災の恐れがある徳島しかないと考え徳島大学へ入学。現在、学業の傍ら、徳島市の災害ボランティアグループ「徳島の風」の会長として、防災講習等で体験を語り継いでいる。そして、小野さんは「神戸では震災を知らない人が増え、体験の風化が進んでいるが、絶対に風化させてはいけない。震災の教訓を糧にして防災の文化を根付かせなければいけない。大震災の証人である私たちが、未来へ、全国へ『あの日』の出来事を伝えることは、6,434人の犠牲者から託された使命なんです」と力強く話された。また、最後にメッセージとして「・まず、気持ちから備えて！・災害はいつ起こるかわからない！・冷静な判断をするため、日頃からの災害想定が命を救う！・あなたの守るべきものは何ですか？」と訴えられた。

修了式では、川越会長から修了証書（7講座中4講座以上出席）が手渡され、第7期の養成講座についての総括・反省点等、第8期に向けた意見交換を行った。



第7期ボランティア・サポートチーム養成講座に参加して

(感想文)

南海地震（東南海地震）が2030年までの発生確率50%とされています。徳島市から鳴門にかけての海岸平野は砂の軟弱な地層が厚く、液状化の危険が高くなっています。その上、津波災害も起こると想定されています。自然の災害に対して、私は何が出来るのか。何となく考えている時に、本講座の募集を聞いて参加させてもらいました。

一般救命講習から始まって、災害図上訓練、講演等8講座素晴らしい内容でした。神戸市、1.17阪神淡路大震災、「人と防災未来センター」の研修視察は、今も鮮明に思い出します。震災当時は、前の職場で働いており、当日出港する船の落成書を作成していました。眠たいのに、早朝5時に起き、パソコンを操作している時、グラグラと体が揺れだしました。私は、一瞬びっくりし、パソコンの手を止め、目をつむり、脳の血管がさけた。こんな早朝に隣の医者も寝ているだろうに、TELしても、起きないのではありませんか。救急車を呼ぼうか、どうしようか……。そっと目を開けた。何と掛け軸が揺れているではないか。頭上を見ると電灯の傘が揺れている。ああ良かった。地震だったと急いで、テレビを点灯したら、地震の緊急ニュースが目に飛び込んできた。

あれから10年、毎日の生活の中で災害に対する心構えが薄れている時に、再度災害に対する心構えを持たせて頂きました。

野外活動で植林をさせて頂いた。大きくなっているかな。私のだけ枯れていないかなと思ひ出します。元気で育ってくれよ……。

本講座を企画運営して頂いた連合徳島の皆様及び関係各位に感謝致します。

(国見 聖)

今世紀前半にも発生する危険性のある南海地震。建物・土木建造物は倒壊し予測され、沿岸地域では津波による被害も甚大となります。また、山間部でも山腹崩壊や土石流災害の恐れがあります。

自然災害が発生すれば自分が被災者となる可能性は十分にあります。少しでも災害救助方法や防災対策を知っておこうと思い、連合ボランティア・サポートチームに参加した。はじめは軽い気持ちで参加したが、他の受講者はみな真剣であり、気後れをしました。

講座は、講義・講演形式と実践訓練形式があります。講義・講演では、美波町の防災

への取り組みや徳島大学に在学されている小野綾子さんの阪神大震災の実体験(「震度7を生き抜いて…」)を聞き、災害図上訓練についても学びました。実践訓練では、人工呼吸やAEDの使用などの蘇生訓練、担架搬送、ロープワークといった救護方法を習い、「連合の森」サマーキャンプでは植林も体験学習しました。

講座日程もほぼ一月に一回のペースであり、また土曜日の午前開講ということで、全講座無理なく参加できました。

私事ではありますが、この講座の参加期間中に妻が妊娠をしました。不測に事態が起ったとき、家族を守れるか、考える機会も多くなりました。阪神淡路大震災では、生存して救出された人の95%が自力、あるいは家族や隣人によって救助されたと言われています。

今回の講座で学んだことを糧とし、日頃からの災害意識が何よりも大切だということを、受講した人が率先して職場や家族・地域の方に伝えていかなければならないと思います。

最後に、この講座を企画・運営していただきました連合徳島の皆様をはじめ、関係者の方々に感謝申し上げます。

(福本 純)

前年度受講された方から、面白く役立つ講義があると教えられたのと、いざと言う時に役に立つのではないかと思います。参加をしました。

印象に残っているのは、東消防署で行われた実践訓練です。消防署の方々から不器用な私に熱心にご指導いただき、心肺蘇生法やロープワーク等の実習をこなすことができました。しかし、時間の経過もあって、自然災害時や日常生活において事故等に直面した時に実践できるかどうか不安です。今後も自分自身で習得に向けた練習も必要だと思います。

最後になりますが、本講座を企画いただいた皆様に感謝いたします。

(岩見 洋)

阪神大震災から10年余が経ち、最近では南海地震が発生する予測が接近する中、地域では災害対策に取り組むため、防災会などを組織し、対策を強めているところであり、少しでも防災に対する知識を得たいと思い参加しました。

講座の中で、一般救命講習（心肺蘇生法やA E Dの運用法など）は、実際に触れてみて何とか初動対応の仕方は取得できました。ロープワークや救急法、担架搬送の方法も繰り返し練習を要しますが、救急時には役立てることができると思います。なかでも、D I G（災害図上訓練）について学びましたが、地域で社会福祉協議会などの活動をしている立場からは、実践に生かせる内容でした。町内会など地域での「防災会」活動が進められている折、隣近所の住居や各家庭の生活実態を色で識別し、把握しておくことなど大いに参考となり、即実用に役立つ内容でした。

この講座を受講して学んだことを地域活動や家庭で生かしていき、災害防止に努めたいと思っています。この講座を企画・ご指導いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

（小笠原 幸雄）

第7期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館6F

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 088-655-4105

f a x 088-655-4113

e-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp

<http://tokushima.jtuc-rengo.jp/>